

最近の酪農情勢（メモ）

平成 29 年 11 月 20 日
日本酪農政治連盟

I 外交交渉

1. 日EU・EPA交渉

- 2013 年 3 月：日EU首脳電話会談で、日EU・EPA交渉開始を決定。
- 2016 年 5 月：G20伊勢志摩サミットに際し、関係首脳（イタリア、フランス、ベルギー、ドイツ、英国）から、2016年のできる限り早期の大筋合意に達するとの強いコミットメントを再確認する共同ステートメントを发出。
- 2016 年 12 月：岸田大臣とマルムストローム欧州委員（貿易担当）との電話会談において、可能な限り早期の大筋合意を目指し、来月（2017年1月）速やかに交渉を開始することで一致。
- 2017 年 1 月：（自由民主党）日EU経済連携対策議員連盟設立総会を開催。設立の趣旨は「情報開示を求めるとともに、我が国の関心事項が確実に実現できるよう働きかけを行うものとする。」こととし、岡田広氏（参議院議員）を会長に選任した。
- 2017 年 6 月：（自由民主党）日EU等経済協定対策本部の設置を決定した。本部長に西川公也氏、幹事長に森山裕氏、事務総長に吉川貴盛氏を選任した。尚、政府は7月上旬の大枠合意を目指すとの報道もなされている。
- 2017 年 7 月 6 日：安倍総理はEUとの経済連携協定交渉が大枠合意したと発表した。酪農関連ではソフト系チーズなどについて、製品ベースで3.1万トン（16年目）の輸入枠を設定、枠内関税は16年目に撤廃。ハード系では関税（29.8%）を16年目に撤廃する。脱脂粉乳・バターについて、生乳換算で1.5万トン（6年目）の低関税輸入枠を設定する、などの内容となった。

2. TPP交渉関連

- 2017 年 5 月：離脱した米国を除くTPP署名11か国は、21日、ベトナム・ハノイで閣僚会合を開催し、米国復帰の方策を含めてTPPの早期発効を迫るとの声明を採択した。
- 2017 年 11 月 11 日：米国を除くTPP署名11か国は、新協定の大筋合意を発表した。焦点となった乳製品の低関税輸入枠の縮小など、農業分野の合意内容は見直さないうが、米国復帰が見込めない場合は、再協議できる新規定を設けた。

II 平成29年度畜産酪農対策

平成29年度畜産物価格・関連対策については、①生クリーム等の液状乳製品向け生乳を補給金対象に追加のうえ補給金単価は一本化とし、同単価については生産者が意欲を持てる交付金単価とすること、②交付対象数量は国内の乳製品の需給状況を考慮し適切に決定すること、③加工原料乳等生産者経営安定対策事業は継続すること、などを要請した。

結果は、補給金単価が10.56円、対象数量は350万トン、所要額は370億円（前年は306億円）となった。尚、生産コストの算定に当たっては、平成25年から27年までの「牛乳生産費調統計（農林水産省統計部）の北海道の各統計データが採用され、廃用牛と子牛価格については、直近7年平均のデータが採用された。

【指定食肉の安定価格】 牛肉 [安定上位価格 1215(1155)円/kg、
安定基準価格 900(890)円/kg]

【指定肉用子牛】	保証基準価格	合理化目標価格
乳用種	136,000 円/頭 (133,000 円)	93,000 円/頭 (90,000 円)
交雑種	210,000 円/頭 (205,000 円)	152,000 円/頭 (147,000 円)

Ⅲ 平成 30 年度政府農林予算 2 兆 6525 億円(対前年比 115%)で決定 (概算要求)

平成 29 年 7 月 25 日の常任中央合同委員会を経て要請内容を決定、特に本年度は①後継牛確保対策、②自給飼料対策、③経営安定対策、④その他対策（酪農経営体生産性向上緊急対策事業（働き方改革）の継続と拡充、畜産クラスター事業の拡充、酪農ヘルパー事業への支援継続等）を重点項目とし、要請運動を継続して展開した。これらの要請活動の結果、以下の事業が概算要求として決定した。

主な酪農関連対策

- ・ 飼料生産型酪農経営支援事業 {70 億円 (70)}
- ・ 加工原料乳生産者補給金 {370 億円 (370)}
- ・ 酪農経営体生産性向上緊急対策事業 {60 億円 (60)}
- ・ 飼料増産総合対策事業 {10 億円 (10)}
- ・ 鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進 {153 億円 (97)}

Ⅳ ホクレン、平成 29 年度プール乳価を 60 銭値上げで決着

平成 28 年 12 月 12 日、ホクレンは平成 29 年度乳価について、乳業メーカーとの平成 29 年度乳価交渉の結果、バター・脱脂粉乳など向けを前年度より 1k g 当たり 1 円、チーズ向けを同 1~2 円引きあげると発表した。その他の用途は据え置く。生産者に支払う平均乳代（プール乳価）は同 60 銭上がるものと見込むと発表した。

Ⅴ 酪農家戸数 16,400 戸 (29.2/1 現在 畜産統計. 農水省 7/4 発表) () 内は前年

	酪農家戸数[戸]	乳牛飼養頭数[千頭]	一戸当たり飼養頭数[頭]
全 国	16,400 (17,000) 3.5%減	1,323 (1,345) 1.6%減	80.7 (79.1) 2.0%増
北海道	6,310 (6,490) 2.8%減	779 (786) 0.9%減	123.5 (121.1) 2.0%増
都府県	10,100 (10,500) 3.9%減	544 (559) 2.7%減	53.8 (53.3) 0.9%増

Ⅵ 牛白血病(BLV)に対する家畜共済の取扱いの見直しについて

【取扱いの変更点】

	現行	見直し後
農場で牛白血病と診断されて廃用となった場合	○	○ (一部免責あり)

と畜場において牛白血病 と診断されて全廃棄となった場合	×	○ (一部免責あり)
--------------------------------	---	---------------

○共済金対象 ×共済金支払対象外

【免責基準】

- (1) 以下を実施していない場合には、全国一律に共済金の4割を免責する。
- ①同一の注射針を複数の牛に用いないこと
 - ②直腸検査及び人工授精時に使用する直検手袋を1頭ごとに必ず交換すること
 - ③妊娠鑑定時に用いるエコープローブをカバーで被覆して1頭ごとにそのカバーを交換すること
 - ④使用後の除角器具、去勢器具、削蹄器具、耳標・鼻環の装着器等は、一頭ごとに別々の容器で洗浄、消毒して使用すること
- (2) と畜場から牛白血病による全廃棄の連絡を受けたのち、3日以内に組合等に損害発生通知がなかった場合は、全国一律に共済金の1割を免責する。

VII 配合飼料価格 (配合飼料給与、3.3t/年・頭→1万円上がれば33,000円の負担増)

- 20年10～12月期、配合飼料価格最高値67,600円（生産者負担59,950円）を記録。
- シカゴ穀物20年8月より下げに転じたが、農家への値下げ反映は21年1月より。
- 24年10月より再び急騰し、26年10～12月一時値下げも次期反発し、高止まり状態。
- 27年1～3月期2,550円上げ。円安に加え主原料の値上がりが要因。
- 27年4～6月期750円下げ。7～9月期1,800円下げ。10～12月期据え置き。
- 28年1～3月期700円下げ。4～6月期3,700円下げ。7～9月期800円上げ。
- 28年10～12月期1,650円下げ。
- 29年1～3月期1,950円上げ。4～6月期700円上げ。7～9月期1,100円下げ。
- 29年10～12月期400円下げ。

VIII 最近の酪政連活動 《主な活動、下記は一例です。》

政府・国会 その他	酪政連・関係機関
8/26(金)自民党 農林水産戦略調査会、農林部会、農政推進協議会 合同会議：平成29年度概算要求 団体要請	8/2(火)1300合同委員会：平成29年度酪農政策・予算確保に関する要請を決定 9/8(木)1200三役会議 9/26(月)酪政連事務所を全理連ビル3階に移転
10/19(水)0800自民党畜酪小委員会 指定団体関係ヒアリング(生産者から)	10/12(水)1600三役会議 10/19(水)1100三役会議・1300常任中央合同委員会[全理連ビル]
10/19(水)1700自民党酪政会総会[参議院議員会館]	
10/26(水)0800自民党畜酪小委員会 指定団体関係ヒアリング(関係団体から)	
10/31(月)1400自民党畜産振興議員連盟総会 平成29年度酪農政策・予算確保に関する要請	11/14・15三役により、農林幹部に対する要請活動、(指定生乳生産者団体制度の存続に関する要請を実施)
11/2(水)自民党 農林食料戦略調査会、食料産業調査会、農林部会、農林水産関係団体委員化、農政推進協議会 合同会議：平成29年度税制改正に関する 団体要請	
11/25(金)自民党 農林食料戦略調査会、農林部会、農林水産業骨太方針策定PT、農業基本政策検討PT、畜産・酪農対策小委員会 合同会議：農業競争力強化プログラム取り纏め	
12/12(月)1630 自民党畜酪小委員会にて、平成29年度畜産物価格。酪農対策に関する要請を実施	12/1(木)合同委員会：指定団体制度について(報告)平成29年度畜産物価格。酪農対策に関する要請を決定
12/16(金)畜酪、報告[901]	
12/19(月)自民党 農林食料戦略調査会、農林部会、合同会議：平成29	

<p>年度農林水産関係予算について、及び日 EU・EPA交渉の状況について</p> <p>1/16(月)日 EU経済連携対策議員連盟第1回総会</p> <p>1/23(月)日 EU経済連携対策議員連盟第2回総会</p> <p>2/17(金)自民党 農林食料戦略調査会、農林部会、畜産・酪農対策小委員会 合同会議:加工原料乳生産者補給金制度改革</p> <p>3/10(金)自民党 農林食料戦略調査会、農林部会合同会議:TPPの最近の状況について</p> <p>5/17(水)自民党 TPP総合対策本部:ハノイにおけるTPP関係会合についてを協議</p> <p>5/17(水)衆議院 農林水産委員会にて、「改正畜安法」の審議を開始。</p> <p>6/9(金)改正畜産経営安定法が国会で可決承認される。</p> <p>6/9(金)自民党、日EU等経済協定対策本部の設置を決め、第1回会合を開く。尚、政府は7月上旬の大枠合意を目指しているとの報道がなされている。</p> <p>7/6(木)安倍総理はEUとの経済連携協定交渉が大筋合意に至ったと発表した。酪農関連ではソフト系チーズについて製品ベースで3.1万トン(16年目)の輸入枠を設定、枠内関税は16年目に撤廃。ハード系では関税(29.8%)を16年目に撤廃する。脱脂粉乳・バターについて、生乳換算で1.5万トン(6年目)の低関税輸入枠を設定する、などの内容となった。</p> <p>8/3(木)安倍総理は内閣改造と自民党役員人事を行った。(第3次安倍第3次改造内閣)農林水産大臣には斉藤健氏が就任した。自民党の国会対策委員長には森山裕氏が就任した。また、その後の人事で農林部会長には、野村哲郎氏が就任した。</p> <p>8/25(金)自民党 農林水産戦略調査会、農林部会、農政推進協議会 合同会議:平成30年度概算要求 団体要請</p> <p>9/6(火)農林水産省は畜安法に係る政省令案をパブリックコメントとして公表。</p> <p>9/28(木)衆議院は9月28日午後の本会議で解散され、与野党は「10月10日公示、22日投票」の日程で選挙戦に突入した。</p> <p>10/22(日)第48回衆議院議員総選挙は自由民主党、公明党の連立政権が2/3の議席を占め、圧勝となった。</p> <p>11/1(水)衆議院選挙をうけ、第195回特別国会が召集され、安倍晋三首相を第98代首相に選んだ。皇居での首相親任式と閣僚認証式を経て、第4次安倍内閣が発足し、全ての閣僚が再任された。</p> <p>11/11(土)米国を除くTPP署名11か国は、新協定の大筋合意を発表した。焦点となった乳製品の低関税輸入枠の縮小など、農業分野の合意内容は見直さないが、米国復帰が見込めない場合は、再協議できる新規定を設けた。</p>	<p>1/25(水)緊急三役会議</p> <p>2/13(月)緊急三役会議</p> <p>2/14(火)1430事務局長会議</p> <p>2/21(火)1300合同委員会:加工原料乳生産者補給金制度改革の進捗、日EU、EPA交渉、米国とのFTA交渉の状況について</p> <p>3/6(月)1100三役会議[自由民主党会館]</p> <p>3/6(月)1300常任中央合同委員会[自由民主党会館]</p> <p>3/6(月)1400通常総会[自由民主党会館]</p> <p>4/12(水)0800民進党ヒアリング(加工原料乳生産者補給金制度改革)</p> <p>4/14(土)1000三役会議</p> <p>5/17(水)1300合同委員会:日EU、EPA交渉、米国とのFTA交渉の状況、加工原料乳生産者補給金制度改革の進捗、について</p> <p>6/15(木)酪政連は、自民党の「日EU経済協定対策本部第4グループ(農業関連)の会合にて、これに関する要請を実施。</p> <p>7/5(水)～8(土)畜産ネットワークの一員として、佐藤副委員長をブリュッセルに派遣</p> <p>7/25(火)1100三役会議。</p> <p>7/25(火)1300常任中央合同委員会[自由民主党会館]日EU、EPA交渉、畜安法改正に伴うスキーム、平成30年度酪農政策予算確保、規約の一分改正、及び役員選任規程(案)の制定についてを協議</p> <p>8/18(金)1400三役会議 補助事業に関する農林水産省との意見交換会</p> <p>9/6(火)斉藤農林水産大臣に面会、就任祝いと平成30年度予算要請を実施。</p> <p>10/10(火)衆議院議員解散総選挙公示に伴い、酪農に理解のある候補者の応援活動を開始した。10/11日開催予定であった合同委員会は中止となった。</p> <p>10/22(日)第48回衆議院議員総選挙について、酪政連は157名の推薦をしたが、うち142名が当選、当選率は90.45%となった。</p> <p>11/1(水)委員長他三役は衆議院総選挙の当選祝いで議員会館を訪問。</p> <p>11/9(木)農林・食料戦略調査会・食料産業調査会・農林部会合同会議において、平成30年度税制改正要請を実施。</p>
--	---

I 生乳・牛乳・乳製品等の動向

1. 生乳受託販売量・用途別処理量〔中央酪農会議、年度・月別〕

〔単位：千トン、(前年同月比%)〕

年度月	合計		北海道		都府県		飲用向け		発酵乳等向		特定乳製品向		生クリーム等向		チーズ向	
	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%
25	7,186.3	98.05%	3,760.9	98.29%	3,425.4	97.78%	3,308.2	98.71%	493.5	99.80%	1,603.9	91.85%	1,302.4	101.95%	478.3	104.02%
26	7,066.7	98.34%	3,732.2	99.24%	3,334.5	97.35%	3,271.2	98.88%	446.2	90.42%	1,538.0	95.89%	1,348.9	103.57%	462.4	96.68%
27	7,122.1	100.78%	3,805.3	101.96%	3,316.8	99.47%	3,261.8	99.71%	451.8	101.26%	1,637.1	106.44%	1,341.8	99.47%	429.6	92.92%
28	7,054.4	99.05%	3,792.3	99.66%	3,262.1	98.35%	3,287.9	100.80%	453.4	100.35%	1,548.8	94.61%	1,339.4	99.82%	424.9	98.89%
28.11.	555.6	98.35%	296.7	97.94%	258.9	98.81%	272.9	99.93%	35.9	100.35%	103.8	95.09%	113.5	100.64%	29.4	86.44%
12	583.4	98.25%	311.9	98.10%	271.5	98.42%	253.1	99.70%	35.1	101.78%	150.8	95.56%	113.8	100.97%	30.6	87.51%
29.1	594.4	98.59%	316.9	98.29%	277.5	98.94%	269.7	102.98%	36.4	101.86%	143.1	87.45%	107.9	102.35%	37.2	103.03%
2	542.6	94.86%	288.7	94.74%	254.0	94.99%	254.5	98.25%	33.7	96.62%	117.0	82.58%	101.7	98.22%	35.6	108.55%
3	606.0	97.94%	320.3	97.98%	285.7	97.90%	259.7	99.88%	38.2	97.90%	150.8	89.39%	115.8	101.66%	41.5	111.92%
4	592.6	97.70%	312.8	97.77%	279.7	97.63%	264.7	100.35%	40.6	106.35%	139.6	89.77%	112.5	98.94%	35.1	99.51%
5	618.7	98.17%	330.0	98.12%	288.6	98.23%	283.9	98.47%	43.0	105.92%	146.9	96.58%	110.0	98.05%	34.8	94.27%
6	590.1	97.87%	319.4	97.20%	270.7	98.67%	285.3	98.60%	41.5	104.63%	119.0	93.16%	109.1	99.63%	35.2	95.92%
7	585.7	96.63%	323.0	96.78%	262.7	96.44%	285.6	100.90%	42.0	102.83%	108.9	83.24%	114.6	100.11%	34.6	93.71%
8	574.8	98.06%	320.6	99.67%	254.2	96.10%	264.4	99.03%	41.9	103.86%	121.0	93.76%	113.4	101.18%	34.1	90.45%
9	558.0	99.02%	307.3	100.31%	250.8	97.48%	293.8	99.96%	38.2	103.89%	84.1	94.51%	109.4	98.60%	32.5	98.81%
10	574.7	99.63%	314.3	101.01%	260.4	98.02%	288.2	98.56%	38.7	103.30%	106.5	107.44%	111.7	98.15%	29.5	86.90%
29.4-10	4,094.6	98.14%	2,227.5	98.65%	1,867.1	97.52%	1,966.0	99.40%	286.1	104.40%	826.0	93.51%	780.6	99.24%	235.9	94.19%

2. 生乳生産量・用途別処理量〔農水省、年度・月別〕

〔単位：千トン、(前年同月比%)〕

年度月	生乳生産量						処理内容							市乳化率(B/A)	
	合計[A]		北海道		都府県		牛乳等向け				乳製品向け		その他		
	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	[B]		うち業務用向け		数量	前年同月比%	数量		前年同月比%
25	7,447.0	97.88%	3,848.6	97.91%	3,598.4	97.85%	3,964.6	98.85%	310.5	100.81%	3,425.5	96.82%	56.9	97.10%	53.24%
26	7,331.1	98.44%	3,820.2	99.26%	3,510.9	97.57%	3,910.3	98.63%	303.198	97.65%	3,361.5	98.13%	59.4	104.39%	53.34%
27	7,407.3	101.04%	3,897.1	102.01%	3,510.2	99.98%	3,953.2	101.10%	314.6	103.77%	3,398.5	101.10%	55.6	93.50%	53.37%
28	7,346.0	99.17%	3,895.5	99.96%	3,450.4	98.30%	3,984.1	100.78%	305.6	97.14%	3,310.5	97.41%	51.3	92.35%	54.24%
28.10.	600.5	99.52%	319.4	99.83%	281.1	99.18%	350.4	101.87%	27.5	92.39%	245.5	96.35%	4.6	99.63%	58.35%
11	579.4	98.45%	305.5	98.19%	273.9	98.75%	330.3	100.52%	28.5	96.05%	244.9	95.91%	4.2	92.00%	57.00%
12	609.9	98.35%	322.2	98.13%	287.8	98.59%	312.1	100.35%	27.2	96.75%	293.6	96.42%	4.2	90.25%	51.18%
29.1	618.1	98.55%	324.3	98.12%	293.8	99.04%	320.3	100.93%	24.6	101.93%	293.6	96.17%	4.2	92.43%	51.82%
2	566.4	95.14%	297.1	94.92%	269.2	95.37%	303.7	96.85%	22.0	89.11%	258.5	93.26%	4.2	91.69%	53.62%
3	634.4	98.49%	330.8	98.50%	303.6	98.47%	320.4	99.76%	25.5	96.30%	310.0	97.38%	4.0	86.75%	50.50%
4	616.7	97.83%	320.7	97.74%	296.0	97.92%	323.8	100.13%	24.8	98.36%	288.8	95.42%	4.2	93.57%	52.50%
5	645.2	98.76%	339.3	98.73%	305.9	98.79%	346.7	99.05%	24.9	96.17%	294.3	98.44%	4.2	97.29%	53.74%
6	614.5	98.11%	328.1	97.40%	286.4	98.93%	347.3	99.13%	24.2	101.80%	263.1	96.82%	4.1	95.89%	56.53%
7	610.2	96.65%	331.4	96.56%	278.8	96.76%	346.6	100.38%	24.7	103.40%	259.5	92.08%	4.1	96.49%	56.80%
8	600.5	98.38%	330.2	99.91%	270.4	96.57%	327.5	99.60%	25.6	104.84%	268.9	96.96%	4.1	96.24%	54.54%
9	580.7	99.18%	315.1	100.39%	265.6	97.78%	349.8	100.18%	26.8	98.90%	226.4	97.55%	4.1	94.73%	60.23%
29.4-9	3,667.9	98.14%	1,964.8	98.43%	1,703.1	97.81%	2,041.7	99.74%	151.056	100.48%	1,600.9	96.18%	24.8	95.68%	34.08%

3. 飲用牛乳等生産量〔農水省、年度・月別〕

〔単位：千ℓ、(前年同月比%)〕

年度月	飲用牛乳等												乳飲料		発酵乳		乳酸菌飲料	
	合計		牛乳		加工乳・成分調整牛乳													
	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	合計		加工乳		成分調整牛乳		数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%
25	3,501.9	98.73%	3,026.2	99.30%	475.7	95.22%	127.9	91.10%	347.8	96.83%	1,366.1	101.55%	1,006.0	101.84%	152.1	93.66%		
26	3,455.1	98.66%	2,994.4	98.95%	460.7	96.85%	117.5	91.90%	343.2	98.67%	1,322.4	96.80%	1,004.6	99.86%	144.5	95.00%		
27	3,465.6	100.30%	3,013.9	100.65%	451.7	98.03%	102.9	87.55%	348.7	101.62%	1,291.0	97.63%	1,077.5	107.26%	145.3	100.55%		
28	3,501.8	101.04%	3,058.6	101.48%	443.2	98.13%	102.4	99.48%	340.8	97.73%	1,225.5	94.92%	1,091.7	101.32%	141.3	97.24%		
28.10.	308.8	100.97%	271.5	101.66%	37.3	96.19%	8.2	96.58%	29.0	96.08%	107.7	94.03%	92.3	103.47%	11.2	101.01%		
11	291.9	101.05%	256.4	101.59%	35.5	97.32%	8.9	98.25%	26.6	97.01%	92.7	92.14%	87.3	102.17%	10.4	93.74%		
12	280.3	100.57%	244.1	100.91%	36.2	98.31%	9.9	98.87%	26.3	98.10%	91.0	96.24%	84.8	101.74%	10.1	97.26%		
29.1	287.1	103.52%	249.6	103.53%	37.5	103.46%	9.2	104.01%	28.3	103.29%	90.0	96.35%	87.9	96.09%	9.7	96.95%		
2	273.3	98.73%	238.9	98.64%	34.4	99.32%	8.5	99.13%	26.0	99.38%	82.7	94.83%	82.9	93.13%	10.0	100.99%		
3	283.5	101.75%	246.1	101.63%	37.4	102.51%	9.1	100.25%	28.3	103.26%	94.8	97.03%	92.1	96.28%	12.0	114.38%		
4	285.7	101.67%	248.8	101.54%	36.9	102.57%	8.2	95.30%	28.7	104.86%	97.0	95.24%	91.8	94.90%	12.8	94.56%		
5	304.7	100.23%	267.2	100.31%	37.5	99.69%	8.0	90.28%	29.6	102.57%	105.2	96.48%	95.8	96.55%	12.3	92.92%		
6	304.0	100.46%	266.9	100.17%	37.1	102.59%	7.6	104.12%	29.6	102.21%	104.4	96.25%	93.3	98.46%	12.0	93.38%		
7	305.1	102.52%	266.0	102.60%	39.1	101.98%	7.5	94.85%	31.6	103.82%	112.5	96.10%	93.0	100.07%	11.9	89.22%		
8	285.6	99.58%	247.0	99.77%	38.6	98.39%	7.6	93.68%	31.0	99.61%	112.7	95.80%	89.4	98.34%	10.6	78.37%		
9	308.7	101.24%	272.0	101.76%	36.7	97.59%	7.2	89.60%	29.4	99.78%	106.4	94.48%	90.7	101.06%	9.7	85.66%		
29.4-9	1,793.8	100.95%	1,567.9	101.03%	225.9	100.43%	45.995	94.42%	179.889	102.09%	638.1	95.73%	554.0	98.18%	69.4	89.06%		

4. バター、脱脂粉乳の生産・在庫状況

■29年9月の生産量：バター3.3千トン(前年比92.9%)、脱脂粉乳7.1千トン(前年比96.5%)

■29年9月末在庫量：バター27.9千トン(前年比100.1%)≪5.4カ月≫、脱粉53.3千トン(前年比100.0%)≪4.6カ月≫

(参考：29年度9月推定出回り量、バター5.2千トン、脱粉11.6千トン)

	バター生産		脱脂粉乳	
	千トン	前年比%	千トン	前年比%
24年度	70,118	111.17%	141,431	104.83%
25年度	64,302	91.71%	128,818	91.08%
26年度	61,649	95.87%	120,921	93.87%
27年度	66,299	107.54%	130,187	107.66%
28年度	63,583	95.90%	123,500	94.86%
28.9	3,585	84.56%	7,330	85.18%
10	4,018	91.34%	7,915	93.78%
11	4,161	98.85%	8,828	96.93%
12	5,695	92.21%	13,084	94.18%
29.1	6,030	88.62%	11,154	88.43%
2	4,883	82.23%	9,425	85.96%
3	6,082	88.41%	12,308	91.80%
4	5,718	87.91%	11,637	93.25%
5	6,190	96.17%	11,555	100.60%
6	4,854	90.01%	9,452	98.38%
7	4,307	79.13%	8,605	85.77%
8	4,961	92.68%	9,593	97.39%
9	3,330	92.90%	7,074	96.51%
29.4-9	29,360	89.75%	57,916	95.28%

5. 生乳・生産物・配合飼料価格の推移(前年同月比)

	総合乳価 [円/10kg]		乳廃牛 [円/生体1kg]		子牛(千円/頭)						乳用牛配合飼料 (千円/ばら1トン)	
	千円	前年比%	千円	前年比%	ホルオス		交雑種		ホルメス		千円	前年比%
23年度	893	100.10%	171	109.60%	37.5	111.30%	117.1	92.40%	203.2	110.30%	62.9	106.10%
24年度	903	101.12%	152	88.89%	32.4	86.40%	103.4	88.30%	220.4	108.46%	62.9	100.00%
25年度	910	100.78%	205	134.87%	46.5	143.52%	143.2	138.49%	217.2	98.55%	70.6	112.24%
28.10.	1,037	100.39%	313.3	102.12%	87.6	114.81%	237.3	114.64%	493.1	174.61%	67.3	93.64%
11	1,033	100.49%	308.8	92.59%	93.9	100.60%	252.9	121.59%	447.7	133.09%	67.4	93.81%
12	1,029	101.08%	279.5	90.19%	89.3	84.72%	255.9	115.27%	480.2	140.78%	67.4	93.79%
29.1	1,003	100.91%	281.8	87.00%	81.6	76.76%	251.5	115.42%	430.7	129.81%	67.5	95.16%
2	1,009	100.60%	299.8	99.07%	94.5	86.48%	258.5	116.23%	452.2	116.64%	67.6	95.29%
3	1,008	100.20%	294.2	99.02%	105.1	96.96%	267.5	116.35%	438.3	111.05%	67.6	95.56%
4	996	100.20%	290.0	90.99%	112.6	98.95%	287.0	117.00%	466.5	120.11%	67.8	100.49%
5	1,018	102.21%	285.7	90.76%	116.9	92.63%	287.0	114.66%	503.1	126.25%	67.8	100.55%
6	1,014	101.30%	291.4	88.92%	130.0	101.17%	279.3	106.28%	480.1	128.06%	68.4	101.56%
7	1,029	101.18%	275.4	88.27%	118.6	99.58%	269.8	97.37%	485.7	128.56%	67.6	98.73%
8	1,033	101.47%	256.5	84.10%	102.2	102.32%	243.1	91.01%	457.9	124.70%	67.4	98.42%
9	1,030	101.58%	246.1	72.36%	93.1	106.31%	225.3	91.25%	513.4	114.01%	67.4	98.35%

資料：農林水産省「農業物価統計」

注：1.平成8年度以降の総合乳価平均価格は牛乳乳製品課推計。

2.乳廃牛価格は、中央卸売市場の乳用メス(乳用種)枝肉C1の平均価格であり、年度平均は各月の単純平均。

3.乳子牛価格について、ホルオスは生後7～10日、ホルメスは生後6カ月程度。F1オスについては、道内11市場における加重平均。

4.配合飼料価格は、小売店頭等での購入価格。

5.()内は年度平均価格については対前年度比、月平均価格については対前年同月比。

Ⅱ 牛肉、子牛価格の動向

(1) 9月推定出回り量83.9千トン(前年比118.0%)、推定期末在庫119.1千トン(前年比95.4%)

年度月	生産量		輸入量		国内生産量の割合	推定出回り量					
						合計		うち輸入量		うち国産品	
23	354,146	98.80%	516,189	100.90%	40.69%	875,942	102.70%	522,865	105.80%	353,077	98.50%
24	359,737	101.58%	505,720	97.97%	41.57%	858,745	98.04%	499,002	95.44%	359,743	101.89%
26	351,555	99.30%	516,313	96.41%	40.51%	846,265	97.61%	492,855	95.61%	353,409	100.54%
27	332,408	94.60%	487,098	94.40%	40.56%	829,347	98.00%	500,834	101.60%	328,513	93.00%
28	324,257	97.55%	525,694	107.92%	38.15%	861,099	104.58%	538,565	108.77%	322,534	98.25%
28.9	26,387	98.98%	42,300	91.89%	38.42%	71,084	99.74%	45,111	100.58%	25,973	98.32%
10	27,186	94.21%	41,249	99.30%	39.73%	76,746	105.94%	50,042	114.33%	26,704	93.14%
11	32,619	99.88%	43,680	97.65%	42.75%	79,307	102.02%	46,894	103.78%	32,413	99.58%
12	30,336	96.20%	45,080	121.91%	40.22%	80,300	105.21%	50,045	110.72%	30,255	97.20%
29.1	24,378	100.50%	34,705	126.37%	41.26%	61,691	107.34%	36,692	111.20%	24,999	102.12%
2	24,366	95.95%	40,600	123.48%	37.51%	66,958	114.90%	43,168	131.29%	23,790	93.68%
3	25,941	100.10%	43,544	120.51%	37.33%	69,560	104.73%	43,818	106.47%	25,742	101.90%
4	28,315	100.87%	51,485	98.68%	35.48%	79,612	97.52%	51,362	96.10%	28,250	100.22%
5	25,418	100.67%	56,446	121.65%	31.05%	79,100	119.21%	53,266	130.58%	25,834	101.07%
6	26,025	100.70%	50,202	127.47%	34.14%	73,012	117.71%	47,358	130.95%	25,654	99.20%
7	28,628	101.34%	56,387	97.45%	33.67%	79,497	97.13%	50,925	93.29%	28,572	104.83%
8	25,762	100.51%	46,850	121.01%	35.48%	70,057	110.16%	44,264	117.09%	25,793	100.00%
9	26,318	99.74%	60,910	144.00%	30.17%	83,873	117.99%	59,087	130.98%	24,786	95.43%
29.4-9	160,466	100.65%	322,280	116.42%	33.24%	465,151	109.05%	306,262	114.32%	158,889	100.16%

(2) 乳子牛(ホルスタイン)価格の推移 <農水省農作物価指数>

[単位:円/頭(前年同月比%)]

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
27	41,170	45,810	50,610	59,370	75,050	88,570	84,330	68,370	67,520	76,290	93,380	105,400	71,323
	97.51%	94.26%	93.76%	103.63%	130.41%	148.81%	160.69%	167.70%	192.09%	241.35%	285.65%	272.56%	155.46%
28	106,300	109,300	108,400	113,800	126,200	128,500	119,100	99,880	87,590	87,610	93,940	89,250	105,823
	258.20%	238.59%	214.19%	191.68%	168.15%	145.08%	141.23%	146.09%	129.72%	114.84%	100.60%	84.68%	148.37%
29	81,570	94,520	105,100	112,600	116,900	130,000	118,600	102,200	93,120				106,068
	76.74%	86.48%	96.96%	98.95%	92.63%	101.17%	99.58%	102.32%	106.31%				100.23%

■肉用子牛基金: 27年度→乳用種=保証基準価格130,000円、合理化目標価格88,000円、交雑種=同199,000円、同144,000円。28年度→乳用種=保証基準価格133,000円、合理化目標価格90,000円、交雑種=同205,000円、同147,000円。29年度→乳用種=保証基準価格136,000円、合理化目標価格93,000円、交雑種=同210,000円、同152,000円。

補給金交付単価は、24第1四半期:乳用種34,350円、第2四半期:乳用種24,100円、第3四半期:乳用種18,200円、第4四半期:乳用種10,600円、
25年度、26年度、27年度、28年度共に全期間補填実績なし
29年度、第1四半期乳用種0円、第2四半期:乳用種0円。

Ⅲ 飼料等の動向

・配合飼料価格:平成29年10~12月はトン400円値下げ(全農)。主としてとうもろこしや大豆粕相場が下落したことが原因で値下げとなった。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
27	75,010	75,090	74,890	73,510	73,480	73,480	71,960	71,950	71,950	71,870	71,850	71,860
	106.88%	107.01%	106.70%	100.08%	100.01%	100.12%	96.71%	96.69%	96.69%	99.69%	99.79%	99.81%
28	70,940	70,940	70,740	67,450	67,390	67,390	68,500	68,510	68,500	67,300	67,400	67,440
	94.57%	94.47%	94.46%	91.76%	91.71%	91.71%	95.19%	95.22%	95.21%	93.64%	93.81%	93.85%
29	67,510	67,570	67,580	67,780	67,760	68,440	67,630	67,420	67,370			
	95.16%	95.25%	95.53%	100.49%	100.55%	101.56%	98.73%	98.41%	98.35%			

■配合飼料販売価格の改定幅と補填の実施状況

[単位:円/トン(補填交付金)]

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
23	3,200(3,000)	1,800(4,700)	1,300(4,700)	▲1,000(2,100)
24	▲2,600(0)	900(0)	900(350)	4,350(5,450)
25	0(4,300)	3,200(5,800)	1,300(5,050)	▲2,750(700)
26	▲500(0)	1,300(0)	800(0)	▲2,650(800)
27	2,550(800)	▲750(0)	▲1,800(0)	0(0)
28	▲700(0)	▲3,700(0)	800(0)	▲1,650(0)
29	1,950(950)	700(1,700)	▲1,100(未定)	▲400(未定)

■米国産穀物の今年度需給見通し(米国農務省11月10日発表)

<期末在庫>大豆は、生産が微減となり、需要は横ばいとなり、在庫予想も微減となった。小麦は、生産は横ばい、需要は増加したため、在庫予想は減少となった。とうもろこしは、生産が増加、需要は微減となったため、在庫予想は増加となった。

* 大豆……………前月に比べ、生産は微減、需要は横ばいとなり、在庫予想は微減となった。(前年比141%)

* 小麦……………前月に比べ、生産は横ばい、需要は増加となり、在庫予想は減少となった。(前年比79%)

* トウモロコシ…… 前月に比べ、生産は増加、需要は微増となったため、在庫予想は増加となった。(前年比108%)

<需 給>

大豆 生産 1億2,044万トン
大豆 需要 1億1,775万トン
(9/1~8/31) 在庫率9.8% 期末在庫1,157万トン(前年比141%)

小麦 生産 4,737万トン
小麦 需要 5,814万トン
(6/1~5/31) 在庫率 43.8% 期末在庫2,545万トン(前年比79%)

トウモロコシ 生産 3億7,029万トン
トウモロコシ 需要 3億6,667万トン
(9/1~8/31) 在庫率 17.2% 期末在庫6,319万トン(前年比108%)

■シカゴ相場 [ドル/ブッシェル]

■為替相場 [東京・銀行間直物中心、円/ドル]

	トウモロコシ	大豆	小麦	対ドル	円相場
12年	6.95	14.66	7.51	12年	82.89
13年	5.78	14.07	6.84	13年	100.16
15年	3.77	9.45	5.07	15年	120.13
2016年11月1日	3.45	10.03	4.03	11月	108.18
12月	3.50	10.21	3.97	12月	115.95
2017年1月	3.62	10.33	4.24	1月	114.73
3月10日	3.60	10.00	4.20	3月15日	114.85
4月13日	3.70	9.60	4.30	4月13日	109.05
5月5日	3.60	9.60	4.30	5月16日	113.80
6月5日	3.80	9.40	4.70	6月19日	110.85
7月14日	3.70	9.90	4.90	7月17日	112.55
8月18日	3.50	9.40	4.20	8月16日	110.65
10月13日	3.50	10.00	4.40	10月12日	112.55
11月10日	3.40	9.80	4.30	11月15日	113.45

■海上運賃[米ガルフ→日本、穀物、パナマックス(5~8万トン級)、ドル/トン]

【20年度93.37 21年度70.26 22年度61.23 23年度51.57 24年度45.75】
 27.1/21=33.00 2/18=30.51 3/2=32.00 3/16=32.12 4/22=33.04 5/28=31.20 7/7=34.51 8/6=36.52
 9/14=32.56 10/15=32.32 11/20=29.5 12/15=26.78 1/14=24.18 2/16=23.05 3/14=24.79 4/15=28.62
 5/23=28.73 6月平均=30.54 7月平均=33.26 8月平均=30.29 9月平均=29.92 10月平均=31.29 11月平均=33.03
 12月平均=35.8 1月平均=35.44 2月平均=36.51 3月平均=38.71 4月平均=40.51 5月平均=36.90
 6月平均=38.28 7月平均=39.78 9月平均=41.56 10月平均=43.10 11月平均=44.13